

No.8

JISSEN



- ・院生の声
- ・アメリカ研修
- ・本願寺「こえんさんエキスポ」
- ・実践報恩講、ビバーラ報恩講

Free

4月



入学式
前期開始 お花見

5月



臨床宗教師研修 開始

10月



DEATH CAFE

11月



実践真宗学研究科 主催
公開シンポジウム

6月



安居

7月



前期企画 写経体験

12月



ごえんさんエキスポ
実践報恩講 ビハーラ報恩講

1月



後期企画 平等院見学

8月



1 アメリカ研修

9月



後期開始

2月



年間行事 終了

3月



三回生 修了式 2

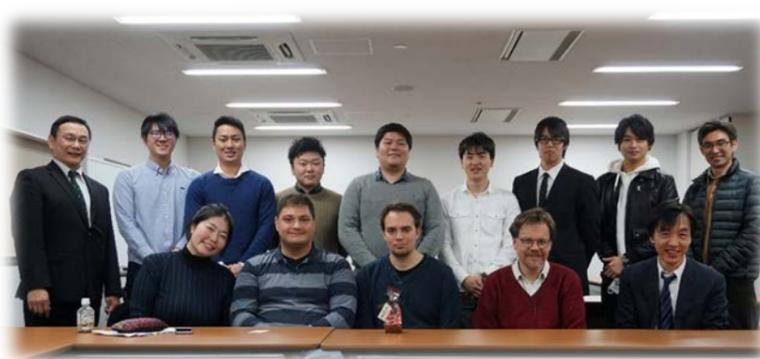
実習紹介

実践真宗学研究科では、通常の講義や資格の為の実習の他にも様々な経験をする事が出来ます。例えば、他校や様々な寺院と連携した実習や、実習案を制作し自らの研究に沿った実習を行う事が出来ます。また、大学院の外での勉強会や練習会にも参加する事ができ、実践的に学び、これからの実習を充実したものにすることが出来ます。

『宗教間対話実習』

この宗教間対話実習では、NCC 日本キリスト教協議会（NCC 宗教研究所）が行っている「日本の諸宗教 研修と対話プログラム」（ISJP）の一環として日本の文化 宗教を学びに、龍谷大学へ訪れたドイツからの留学生の方と「共感」「対話」をさせて頂きました。

「共感」では、本願寺 御影堂、御弥陀堂の参拝、書院の案内。そして「対話」では、大宮学舎研究室にて、臨床宗教師研修の紹介と、キリスト教と仏教、浄土真宗との対話を行いました。



『Death Cafe 企画・実施 実習』

DeathCafe 企画・実施 実習は6月、10月と2回行われました。

6月に京都市内の寺院において行われたDeathCafeを、今回は実践真宗学研究科の1回生が企画、運営スタッフをさせて頂き開催いたしました。

用意された実習に参加するだけでなく、院生同士で企画を考え、先生から御助言をいただき、当日の運営をしたりと、実習を組み立てていけるのが実践真宗学研究科での実習の特徴です。



『雅楽勉強会』

この雅楽勉強会は、浄土真宗本願寺派京都教区に所属する若手僧侶たちによる会、「京都教区若僧会」が主催されている勉強会です。

この勉強会で、はじめて邦楽器に触れる院生もいます。1から雅楽をはじめ月に1度のこの勉強会で練習をし、そして実践真宗学研究科主催の報恩講や各教区の報恩講に出勤し演奏をさせて頂いています。



『布教伝道実習』『布教大会』

『学内法話 合同実演』『実践法話』

布教伝道の実習の中でも、「法話」に関する実習は様々な種類があります。布教伝道を学ぶ特別講義、研修会への参加や、布教大会の聴講。そして、お聴聞させて頂くだけでなく、布教大会への出講、なかでも法話実習（実演）として院生同士で法話を聞きあうといった実践的な実習を行っています。

こちらの実習も雅楽勉強会と同じように、ビハール本願寺での報恩講や実践真宗学研究科主催の報恩講など、様々な機会において法話をさせて頂くときの素晴らしい経験になっています。

『「仏教こども新聞」「フリーペーパー ののさま」編集実習』

『勤式勉強会』『「Toy×ポーズ」スタッフ』

『実践真宗学研究科 公開シンポジウム 運営スタッフ』 etc.

布教伝道のひとつである「文書伝道」という方法を用いて、特に若い世代にターゲット絞りに活動をしている『仏教こども新聞』『フリーペーパーののさま』の編集、発行に携わることで、少年教化についての実習をさせて頂きました。

また勤式作法の勉強会や、卒業生の方が携わっておられるイベントのスタッフなど様々なものに触れる機会があります。そして、龍谷大学アバンティ響都ホールにて開催させて頂きました、実践真宗学研究科が主催する公開シンポジウム「社会的排除と生きづらさの克服をめざして 一社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）と宗教一」の会場設営と運営スタッフをさせて頂きました。

～院生の声～

しのだ じゅんしょう 篠田 准照 (3回生)

1. ちょっと遠くへ法話のお聴聞に行った後に美味しいものを食べて帰ること
2. 楽しみながら色々なことを学ぶことが出来たと思う。しかし、3回になってからは1回の時にこうしておけばよかったと後悔の日々。
3. 勤式の後に自坊に帰る



うえだ たいち 上田 泰地 (2回生)

1. 海外ドラマに夢中です。おかげで寝不足の日々が続いています。おすすめは「ゲームオブスローンズ」と「FRINGE」です。
2. 実践に入って、日々の講義や、実習などで充実した2年間を過ごすことができました。人生で1番勉強した2年間だったと思います。特に臨床宗教師研修では、実際に臨床の現場に足を運ぶことで、講義だけでは学べない寄り添いの難しさや、大切さなどを学ぶことができました。
3. 3年目の今年は、修論に向けて、自分の研究テーマである「真宗僧侶におけるグリーフケア」についてさらに深めていきたいと思っています。

また、布教実習も始まるので、
苦手な法話も頑張ります。

実践での最後の年になるので、
後悔のない1年にしたいです。



実践真宗学研究科で学ぶ4人の院生たちにインタビューをしてきました。

この、三つの質問に答えて頂きました！

1. 今、夢中になっていることは？
2. 自らの実践真宗学研究科での活動を振り返って
3. 今後の研究、活動の予定

リアルでフレッシュな「院生の声」をご覧ください！

なかがわ ゆい 中川 結幾 (3回生)

1. 写真撮影
2. あっとゆう間だった感覚の半面、3年前を思うと、自身の宗教や真宗学に対する考え方がぐっと深まり広がっていったことを実感します。本当に良き先生方、良き友人やご縁あったみなさんのおかげで、感謝してもしつくせません。
3. 宗学院の聴講。
あとは、今携わってる Sotto のボランティアは継続して関わっていく予定です



かどの ゆりか 葛野 優利華 (1回生)

1. 美味しいスイーツ食べ歩き、生け花、フランス語
2. 様々な分野に触れることで、真宗学の核が見えつつある。
3. 研究の予定は、寺院での布教伝道を考察する。特に、布教経験の浅い布教使や僧侶の法話能力の向上に影響を与える要因を探る。活動予定としては、布教実習に力を注ぎたい。



「願われないのち」

今から約20年くらい前の話なのですが、とあるお寺の住職さん・坊守さんに幼稚園に通う二人の息子さんがいました。その長男の息子さんは、お寺の近くの商店街のお祭りに親戚の方に連れてってってもらったそうです。帰りに住職さんが迎えに行くと、その息子さんは後ろに何かを隠していました。それは、金魚すくいにとった2匹の金魚でした。住職さんは「お寺では金魚は飼わないから返さない」と言いましたが、息子さんは「僕が金魚の世話をするから飼わせて」と何度も言いました。住職さんは今の気持ちなだけで、世話などたいしてしないことはわかっていましたが、金魚の世話をきちんとするという条件で飼うことを住職さんは許したそうです。お寺に帰る途中、水槽や餌を買って、何度も自分で世話をするようにと約束をさせました。飼い始めて3日ぐらいは世話をしていましたが、案の定息子さんは世話をしなくなり餌やりや、水の入れ替え等は、住職さんの日課となってしまいました。

数週間が過ぎたある日、1匹の金魚が死んでいました。住職さんは、幼稚園から帰ってきた息子さんに、「残念で悲しいお知らせがあるんよ。金魚が1匹死んだんだ」と息子さんに報告しました。住職さんは息子さんが「どうして?」とか、「もっと世話をちゃんとすればよかった。ごめんね」と言うと思っていたら、息子さんは「1匹だけ死んだの?じゃあいいや、まだあと1匹いるから」と答えました。住職さんは何も言葉がでなかったそうです。

その話を聞いていた坊守さんは、息子さんの手を引っ張って本堂に連れていきました。坊守さんは息子さんに「あなたはまだ1匹いるからいいやって言ったよね。お母さんには2人子どもがいるから、あなたが死んでも、別に何も思わないから。」と言ったそうです。続けて坊守さんは「あなたの言ったことはそう言うことよ。お母さんは子どもが2人いるから1人死んでもいいやと思わないよ。金魚だって、死んだ金魚とまだ生きている金魚は変わることでできないいのちなの。そして、あなたのいのちも弟のいのちもどちらも変わることのできな大切ないのちなの。2人とも大切なお母さんの宝物なの。」と言ったそうです。息子さんは大泣きしながら「ごめんなさい」と言ったそうです。しばらくして、住職さんは「金魚どうする?」と息子さんに尋ねると、「金魚のお葬式をしたい」といわれ、息子さんと住職さんは、阿弥陀様の前でお参りをし、2匹目の金魚が死んだときも同じことをしたそうです。

ちなみに息子さんは、このエピソードがきっかけとなり、成長されて将来自坊の住職になるべく、現在龍谷大学大学院実践真宗研究科2回生で日々研鑽されているそうです。そうです、その息子とは私のことであり、住職・坊守は私の両親であります。

私の幼い頃のように他のいのちを自分の都合でみて、「一つのいのちくらいいいじゃないか」といのちをいのちとも思わないまさに残酷な私は、他のいのち、自分のいのちも「生きるとは何か」「死んでいくとは何か」という意味も知らずに、このまま迷い続けるしかありません。いのちが平等であることは言わると分かりますが、常日頃からそのような心が持てず自分勝手な思いから他のいのちを選別してしまうのが、愚かな私のいのちの見方なのです。

そんな愚かな私こそ、阿弥陀様はどのいのちもかけがいのない大切なわが子よと、見てくださっています。誰も変わりはない、一人ひとりを分け隔てなくわが子のように愛し、もう二度と迷い続けるいのちにはさせないと願ってくださっています。迷い続け、その迷いに自分でも気づくことができない・自らさとりをひらくこともできない私に、阿弥陀様が「一子地」といわれるさとの境地を得させようと、すべて必要なご準備をしてくださり迷い続ける人々を必ずすくうと願いをおこされたのです。

私たちの命は、阿弥陀様から「一子地」と願われないのちであります。一人ひとりわが子のように思い願ってくださり、必ずすくおうと一人ひとりに、とどいてくださっている方が、阿弥陀様なのです。

私たちのこのいのちは、阿弥陀様に願われないのちです。

阿弥陀様のおはたらきによりお浄土へとまいらせていただき、「一子地」というさとの境地を得させていただける、阿弥陀様のおすくいをご一緒によるこばせていただきましょう。

実践真宗学研究科 2回生

はらだ しんや
原田 真哉



アメリカ研修



8月19日～8月28日までアメリカ研修が行われました。今回のアメリカ研修では、サンフランシスコ、ロサンゼルス、バークレーへと研修しに行きました。様々な先生方の講義や初の海外でのJissenjya Project、LIFE SONGSによるパフォーマンスなど、^{みの}実りある研修となりました。





研修の感想

ささき ともが
佐々木 朋信 (2回生)

アメリカ寺院での課題として挙げられていたのが、寺院でのイベントをする時は、普段の法要とは比にならないぐらい人が参加をするが、イベント以外の時はなかなか寺院に集まらないというのが課題だと話をされていた。それは日本でも同じことが言えると思う。日本の寺院活動においても、お笑いやコンサートなどを開いている寺院はあるが法要の時に集まらないという話を聞いたことがある。そうしたなかで、どう法要への参加につなげていくか日本もアメリカも同様の課題があるのではないかと感じた。今後、寺院活動をする時、同様のことをする場合、どう進めていくのかいかにして真宗の教えや法要に参加しやすくなるのか考えるきっかけになった。

くまわに しんぎょう
熊罾 信行 (2回生)

私は、浄土真宗が実際のところ、アメリカでどのように受容されているのかということに着目しながら、今回の研修に臨みました。現地に身を置くことによって初めてわかること、感じられることがたくさんありました。アメリカのメンバーさん（ご門徒さん）はとてもパワフルで、また日本とは趣の異なる雰囲気がありました。お念仏を喜ばれるお姿や、おみ法り自体は、日本と決して変わることはありませんが、アメリカにおける浄土真宗は、英語で表現されている浄土真宗です。浄土真宗が現地に応じたかたちをとって、人々に伝わっているすがたを、今回の研修で垣間見ることができました。



二〇一七年二月九日〜一〇日
本願寺 白洲

ごえんさんエキスポ

LIFE SONGS 代表 奥田 章吾 おくた しょうご

LIFE SONGS は2日目のごえんさんエキスポに参加しました。ブースでは、パネルやムービーで活動紹介をしながら、クイズを出題し、多くの方に活動を知ってもらう機会となりました。13時からは安穩殿で公演も行い、過去の公演に出演したアーティストらが、自分の命の終わりを見つめ、また大切な人との別れをテーマに、演奏し、来場者を魅了させました。そして、演奏を聴いた方々は、それぞれ自分の人生を振り返り、また命の終わりを見つめる時間を過ごしていました。会場の席には座りきれない程多くの方が来場していましたが、「初めて本願寺に来た」という方も多くいました。LIFE SONGS では、「ご縁のなかった方々」への働きかけをこれからも続けて参りたいと思います。



ジッセンジャー代表 原田 真哉 はらだ しんや

ごえんさんエキスポでは、たくさんの方々にジッセンジャープロジェクトを見ていただき、また知っていただくことができ、ありがたいご縁がたくさんありました。初めての安穩殿での公演や境内でのブースにて、子どもたちをはじめ、老若男女たくさんの方々と触れ合うことができたと感じました。



グチコレ代表 木本 晃英 きもと こうえい

土日の早朝から準備に差し掛かり、中々ハードな2日間でした。今回は路上とは打って変わってブース出店でしたので、沢山の方が興味を持ってくださり、多くの来談者が来られました。初めて長時間のグチコレで疲れましたが、それでもたくさんの方々から様々な愚痴を聞かせて頂き、帰られる頃には「スッキリしました。」という声が聞けました。徐々にではありますが、グチコレの認知度が上がってきたのかなと感じた二日間であり、寒かったですが、活動を応援して下さる一言を頂く場面もあり、心が温まりました。



実践報恩講

大宮本館講堂にて、実践報恩講が行われました。

今年の報恩講は、来年度の実践真宗学研究科開設10年目に向け、

実践真宗学研究科の院生だけではなく、研究科に携わる先生方や

OB・OGの先輩方など、多くの方々と一緒に勤めさせていただきました。

ビハーラ報恩講

京都府城陽市にある特別養護老人ホームの「ビハーラ本願寺」にて

報恩講のお勤めをさせていただきました。本山の方と院生が担当さ

せていただいた結集と雅楽の演奏によって法要が行われ、多くの入

居者や施設の方がお参りしてくださいました。

～部会紹介～



出版活動部会 部長 はらだしんや 原田真哉

出版活動部会は、主に刊行冊子『JISSEN』や『瓦版』を大学院生自ら作成し、学内外へ広報活動を行っています。

また、研究に活かせるよう、様々な研究企画を考え実施して、研鑽を行っています。

現部長を筆頭に全員が四番でエースという自覚を持ちながら活動する、とても、やりがいのある部会です。

勤式部会 部長 くまわにしんぎょう 熊鱈信行

勤式部会は、主に昼休みに合同研究室で勤行を行い、活動しています。また、実践真宗学研究科の報恩講を企画することや、勤式作法に関する事柄について、日々研鑽を積んでおります。

会計親睦部会 部長 やましたあきら 山下 顕

会計・親睦部会では、各部会で使われる活動費の管理と、研究生の交流を深めることを目的とした懇親会の企画という二種類の活動を主に行っています。また、現在は三月の修了パーティーに向けて、みんなで準備を進めています。



図書部会 部長 ささきともひ 佐々木朋信

図書部会の活動は図書館にある本、寄贈された本の管理や合研の備品の管理や美化等を行っています。

また、前期と後期に分けての大掃除をしていて、その仕切り役を担当しています。

院生の人たちをはじめ様々な人が合研を利用しやすいように工夫を施しています。



jissen_kikaku

JISSEN

JISSEN

JISSEN

1月27日(土)

平等院鳳凰堂
~宇治抹茶ツアー
宗教的バカンス~



♡ 〇 📌

#13:21JR 宇治駅着
#宇治橋通り商店街から
平等院表参道へ

♡ 〇 📌

#抹茶餃子 #みどり色
#ふつうに美味しい
#たこ焼きもある

♡ 〇 📌

#福寿園 宇治喫茶館
#宇治茶おにぎり
#宇治川工事中

JISSEN

JISSEN

JISSEN

JISSEN



♡ 〇 📌

#抹茶&ほうじ茶ソフト
#抹茶だらけ
#しばし休憩

♡ 〇 📌

#平等院到着 #鳳凰堂
#正式名称は阿弥陀堂
#観経の世界がモチーフ

♡ 〇 📌

#金銅鳳凰 #これは複製
#国宝はミュージアムに
#十円玉と一万円札

♡ 〇 📌

#鳳凰のポーズ
#二対の鳳凰
#本物には雄雌はない

JISSEN

JISSEN

JISSEN

JISSEN



♡ 〇 📌

#阿弥陀如来坐像は仏師
定朝現存する唯一の作品
13 #鳳凰堂中堂 拝観

♡ 〇 📌

#平等院ミュージアム鳳
翔館 拝観 #館内撮影禁
止のため出口のみ

♡ 〇 📌

#次は宇治上神社へ
#菟道稚郎子命
#本殿は国宝

♡ 〇 📌

#企画を終えて休憩
#京料理 宇治川旅館
#ぜんざい

実践真宗学合同研究室

京都の七条大宮交差点、南東の角にある龍谷大学大宮学舎清風館の3階に、

私たち実践真宗学研究科の合同研究室、通称「合研」^{ごうけん}があります。

この合研には院生、学部生が自由に使用する事が出来るコンピューターやプリンター、スキャナー等が揃っています。また合研の本棚には、仏教学、真宗学に留まらず、研究に必要な様々な専門書が並んでいます。下の写真のようなミーティングスペースや、同期や先輩達と意見交換や勉強が出来る大きな机も置いてあります。そして、中でも特徴的なものは「お仏壇」があることです。このお仏壇の前で私たちは、お勤めはもちろん、仏教讃歌や作法の勉強などもさせて頂いています。この「JISSEN」の制作に関するミーティング（通称「部会」）や平等院鳳凰堂拝観のスケジュールリングや、実際の「JISSEN」の制作も合研で行いました。



合研には、実習案、法話原稿、修士論文など、様々な作業をしている院生がいます。お互い研鑽しあうことができる良い場所であり、安心して楽しく過ごせる研究室です。

院生に限らず、学部生の方も利用していただけますのでどうぞお越しください。



Information

〒600-8268

京都市下京区七条大宮東入大工町 125-1

龍谷大学清風館 3F 実践真宗学研究科合同研究室

TEL : 075-366-0621

『JISSEN No.8』

3月1日 発行

発行：実践真宗学研究科

制作：実践真宗学研究科 出版活動部会

編集：実践真宗学研究科 出版活動部会

※この活動情報誌『JISSEN』は、龍谷大学実践真宗学研究科の院生が、実習の一環として主体的に取り組み発行するものです。